

西春工場で反応釜を増設

1971年の創業以来、ウレタン樹脂に関する技術に磨きをかけているシンク化学工業。国内外で化学物質の規制が強化されていることを背景に、環境により配慮しながら優れた機能も備える製品を提供できるよう研究開発に励んでいる。

同社はウレタン樹脂の合成を行っているとともに、同樹脂を主成分とする接着剤、塗料、バインダー、エラストマー、発泡製品のODM（相手先ブランド）による設計・開発・製造）ならびにOEM（相手先ブランドによる製造）を手がけている。同社の技術力は高く評価されており、建築業界をはじめさまざまな分野で利用されている。

生産拠点は本社（愛知県北名古屋市内）にある西春工場と名古屋工場（名古屋市内西区）の2カ所。西春工場では溶剤系や反応系製品、名古屋工場ではプレンド品などを

扱っている。

建築用接着剤や競技場で使われるゴムチップ用バインダー向けなど全般的に引き合いは強く、両工場とも高稼働が続いている。需要に 대응するため継続的に設備投資を実施。西春工場では約2年前に容量8000ℓのSUS（ステンレス）製反応釜を増設したのに次いで、このほど容量8000ℓの反応釜を1基導入した。投資額は約5000万円。すでに大型反応釜を使ってウレタン樹脂の合成を始めている。これにより同社が保有する反応釜の数は23基となった。

同社はさらなる飛躍を遂げるため新たなニーズの獲得を目指す。狙いに定めている一つが20年に開催される東京五輪関連。首都圏を中心に新設される宿泊施設の建造などで使用される接着剤といった製品の製造を請け負い成長につなげていく。



満留晃浩社長